

平成 24 年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2013

新潟県長岡市教育委員会

平成 24 年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2013

新潟県長岡市教育委員会

例　　言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査及び立会調査の報告である。乙吉地区試掘調査、栃倉遺跡立会調査以外のものは、平成24年度国庫・県費補助金の交付を受けて実施した調査である。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、新田（1・4・6・7・9）、鳥居（5・8）、小林（2・10）、丸山（3）が分担した。編集は新田が行った。図版などの作成は一部で整理作業員の協力を得た。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における  は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方から御協力、御教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

協同組合エコファーム新潟 株式会社エヌ・アール・ケー総合企画 柿町町内会

三条地域振興局農業振興部農地整理課 島崎集落 長岡地域振興局地域整備部道路課

長岡地域振興局地域整備部与板維持管理事務所 長岡地域振興局農林振興部農地整備課

中之島土地改良区 山通り地域復興推進協議会

駒形敏朗 鈴木重壱 山岸久良二

目　　次

1 平成 24 年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2 六所地区試掘調査	3
3 島崎地区試掘調査	4
4 石ノ下遺跡確認調査	6
5 乙吉地区試掘調査	9
6 山下 C 遺跡確認調査	10
7 柿館跡確認調査	11
8 柿地区試掘調査	12
9 千谷沢地区試掘調査	14
10 栃倉遺跡立会調査	16



第1図　長岡市の位置



写真1　調査風景（山下 C 遺跡）

1 平成24年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

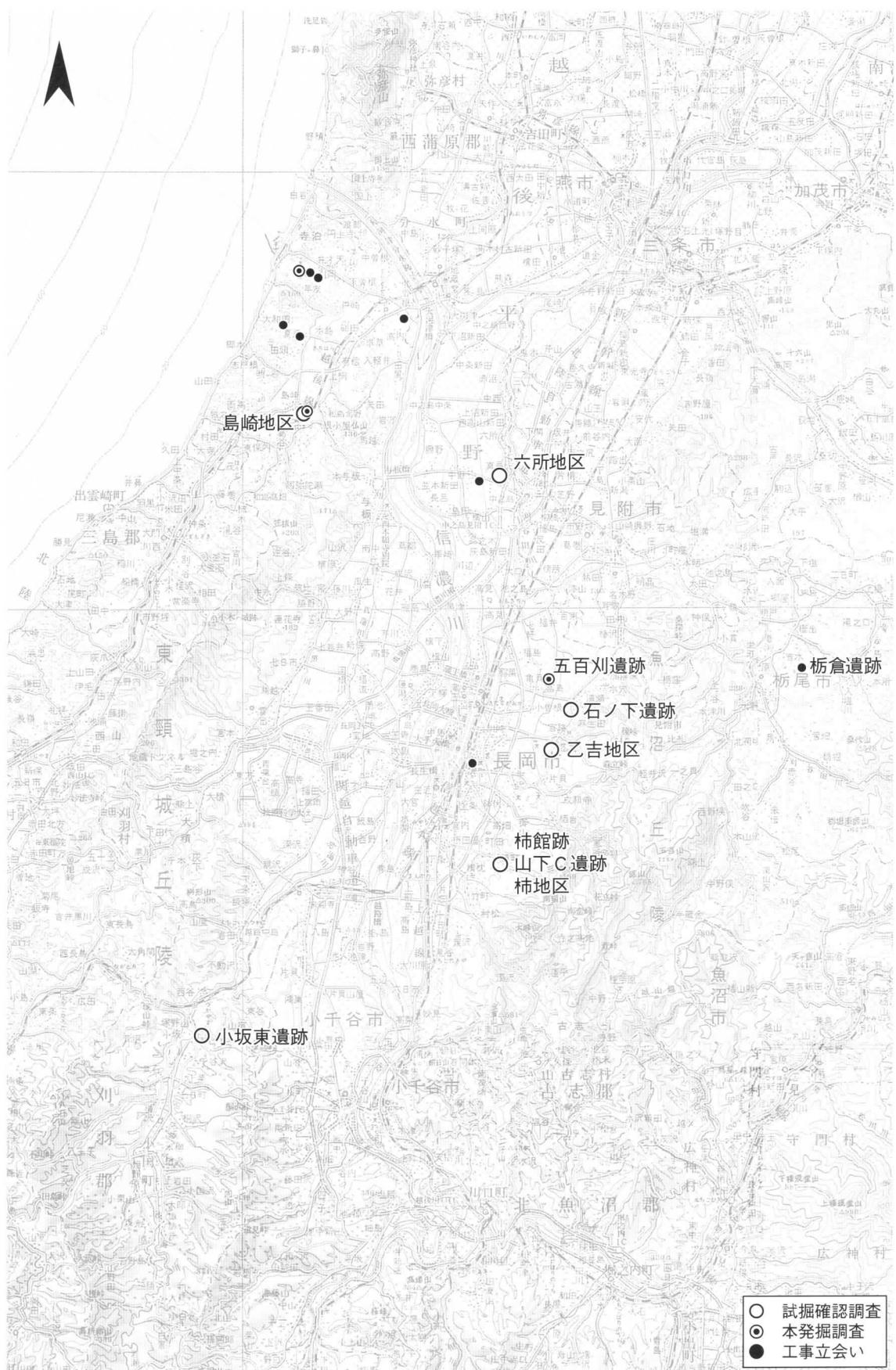
平成24年度に長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は8件である（平成25年3月1日現在）。このほか、諸開発に伴う工事立会いを8件実施している。平成17年の新長岡市誕生以降に実施された試掘・確認調査は、平成20年度をピークとして減少傾向にあり、平成23年度は3件であった。しかし、今年度は増加に転じ、来年度以降も一定量の調査が予定されている。以前のように県営は場整備事業が調査原因の多くを占めていた時期と比べて事業者や対象事業が多様化し、また事業計画から実施までの期間が短くなっていることから、遺跡の取扱いに係る協議をはじめとする埋蔵文化財保護行政も、これにしっかりと対応していく必要がある。

本年度の試掘・確認調査の結果について概観する。実施した8件のうち、遺構や遺物が検出されたのは4件である。郷本川改修工事に伴う島崎地区試掘調査では、平安時代の遺構・遺物が出土し、浦反甫東遺跡の範囲が及んでいることが判明した。平成25年度に本調査を実施する予定である。国道404号線改築工事に伴う千谷沢地区試掘調査では縄文土器・須恵器・土師器が少量出土した。新発見の遺跡となったが、遺跡の遺存状況が悪く、本調査の実施は不要と判断された。市道改良工事に伴う柿地区試掘調査では縄文土器・磨石類、そして土坑を検出した。これにより山下A遺跡の範囲が広がることが判明し、平成25年度に本調査を実施する予定である。今年度、柿地区では柿館跡及び山下C遺跡周辺での確認調査も実施しており、平成元年度の広範囲な確認調査や、山下A遺跡における調査成果を含め、遺跡の様態が詳細に把握されつつある。そして、宅地造成事業に伴う石ノ下遺跡確認調査でも平安時代の遺構・遺物を検出した。これについては調査後の協議によって事業計画が変更され、遺跡は現状保存される見込みである。

また、栃倉遺跡での立会調査では三角形土版をはじめとする縄文時代中期中葉の遺物が出土している。立会調査の果たす役割も看過できないことを示す事例と言えよう。

第1表 平成24年度長岡市内遺跡調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	金八雨乞山遺跡	県営は場整備事業	立会（遺構・遺物なし）
	長八遺跡	県営は場整備事業	立会 遺構なし/須恵器
	吉竹西遺跡	県営は場整備事業	立会（遺構・遺物なし）
	金八遺跡	県営は場整備事業	本調査 土坑/溝/須恵器・土師器
	夏戸城跡	史跡整備事業	立会（遺構・遺物なし）
	山屋敷遺跡	PHS用アンテナ建設工事	立会（遺構・遺物なし）
和島	浦反甫東遺跡	河川改修工事	本調査 平安時代の柱穴/須恵器・土師器
	島崎地区	河川改修工事	試掘 溝/平安時代の土器
中之島	上沼新田地区	県営は場整備事業	立会（遺構・遺物なし）
	六所地区	県営は場整備事業	試掘（遺構・遺物なし）
柿尾	栃倉遺跡	水道管敷設工事	立会 遺構なし/縄文土器/三角形土版
越路	千谷沢地区	国道改築事業	試掘 遺構なし/縄文土器/須恵器・土師器
長岡	乙吉地区	県道改良工事	試掘（遺構・遺物なし）
	柿館跡	公園造成工事	確認（遺構・遺物なし）
	柿地区	市道改良工事	試掘 土坑/縄文土器・石器
	山下C遺跡	道路改良工事	確認（遺構・遺物なし）
	石ノ下遺跡	宅地造成事業	確認 土坑/平安時代の土器
	五百刈遺跡	県営は場整備事業	本調査 土坑/溝/弥生土器/須恵器・土師器
	長岡城跡	水道管敷設工事に伴う地質調査	立会（遺構・遺物なし）



第2図 平成24年度調査位置図 (1/250,000)

2 六所地区試掘調査

調査地 長岡市六所 地内

調査面積 186.0m² (対象面積3,350m²)

調査期間 平成24年10月4日~10日

調査担当 小林 徳

調査に至る経緯 平成22年8月に新潟県三条地域振興局農村整備部と長岡市教育委員会（以下、市教育委員会）は、県営は場整備事業中之島南部地区工事における埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。当事業は平成23年度以降に事業が開始され、平成23年10月6日から6日間の試掘調査を行った（長岡市教委 2013）。平成24年度の試掘については改めて協議を行い、稲刈り後の早い時期に行うこととなり、地元住民に試掘調査の意義を説明するとともに協力をしてもらうため、市教育委員会は説明会を開催して、10月4日から10日のうち3日間において試掘調査を行った。

調査地の概要 調査地となった中之島地域は信濃川と刈谷田川に挟まれた沖積低地に位置し、一体は氾濫などにより被害を受けやすいいわゆる「流れ処」と呼ばれるような場所である。調査地の東には刈谷田川の自然堤防が形成され、六所や野口などの集落がこれらの自然堤防上に存在している。また、西には中之島川が流れ、周辺の微高地上に稻島などの集落が形成されている。

調査の結果 調査区内に2×3 mの調査トレンチを任意に設置して、バックホウにて慎重に掘削を行った。また、掘削後の埋め戻しでは10~20 cmの厚さで川砂を入れて、工事時及び工事前の耕作時に支障が出ないように配慮した。

各トレンチとも耕作土であるI層の下に厚い粘土層が堆積していた。IV層は炭化物や腐敗した植物を含むトレンチなども一部であった。また、下層にいくとシルト塊が認められる層もあり、特にVII層では層をなしている。

調査の結果、トレンチ内から遺物・遺構は見つからなかったため、事業に支障はないが、工事における掘削時などに遺物が検出した際は科学博物館まで連絡をするよう指示をし、調査を終了した。

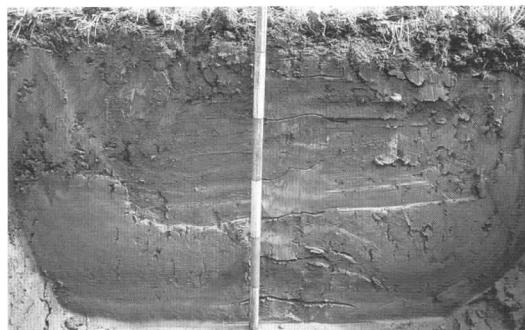
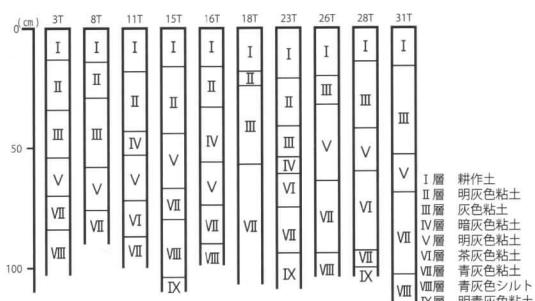


写真2 第4トレンチ土層



第3図 土層柱状図



第4図 調査トレンチ配置図 (1/20,000)

3 島崎地区試掘調査

調査地 長岡市島崎403番地2ほか

調査面積 101.6m² (対象面積4,200m²)

調査期間 平成24年10月12日・15日

調査担当 丸山 一昭

調査に至る経緯 和島地域を流れる郷本川は笠抜山付近に源を発し、保内川、小島谷川、荒巻川と合流し寺泊地域の丘陵地帯を抜けて日本海に注ぐ、延長12.3kmの二級河川である。明治初期の大河津分水工事により西川と分断された旧島崎川を母体に、寺泊郷本地区から日本海に排水をさせるために掘削された人工河川でもある。郷本川は市街地の島崎地区内を流れるが、排水機能が低いため度々水害をもたらしてきた。このため新潟県では水害の抜本的解決策として、島崎地区の河道を迂回させ新河道（捷水路）を開削する工事を進めてきた。これに伴い、平成23年8月から平成24年12月にかけて、浦反甫東遺跡発掘調査が実施された。本調査対象は法線の延長180mを測る区間で平面積7,200m²に及んだ。調査の結果、古墳時代から近世までの河川や平安時代の溝・掘立柱建物跡などが検出された。また、遺跡の範囲外と想定していた調査区の西側にも溝状遺構が伸びていることが判明したため、平成21・22年度に続き改めて対象地点を試掘調査することとした。

調査地の概要 調査地は郷本川、荒巻川の合流点付近にあり、沖積平野の微高地に立地する。調査地西側には浦反甫遺跡、北側には川東遺跡が分布する。

調査の結果 対象地内に試掘トレンチを8箇所設けて調査した結果、1Tで遺物が多く出土した。後世の耕作等により遺物包含層は認められなかった。また鉄分・マンガン等による斑紋がみられたため、遺構は検出できなかったが、残存率の高い平安時代の土器が5a層で集中的に出土した。

隣接する浦反甫東遺跡I区では平安時代の土器を含む溝状遺構が検出され、この溝が西側に伸びることが予想されることから、1T出土遺物についても溝出土の可能性が考えられる。2T以西は次第に標高が低くなり遺構・遺物もほとんど確認されないことから、河川や沼地のような環境であったと考えられる。8T周辺の南側では、中世～江戸時代頃の河川が伸びていることも予想される。以上のことから1T周辺が浦反甫東遺跡の西端部と考えられる。

出土遺物 須恵器無台壺4点、須恵器製作技法の土師器無台壺1点、土師器長甕1点が1Tの同一箇所から出土した。須恵器無台壺は、口径12cm前後、底径8cm弱、器高3cmほどで、いずれも佐渡小泊窯産とみられる。底部の切り離し技法は、回転ヘラ切りで左回転が主体である。これらの所属時期は本調査出土遺物と同様に、概ね9世紀後半と考えられる。



第5図 調査位置図 (1/100,000)

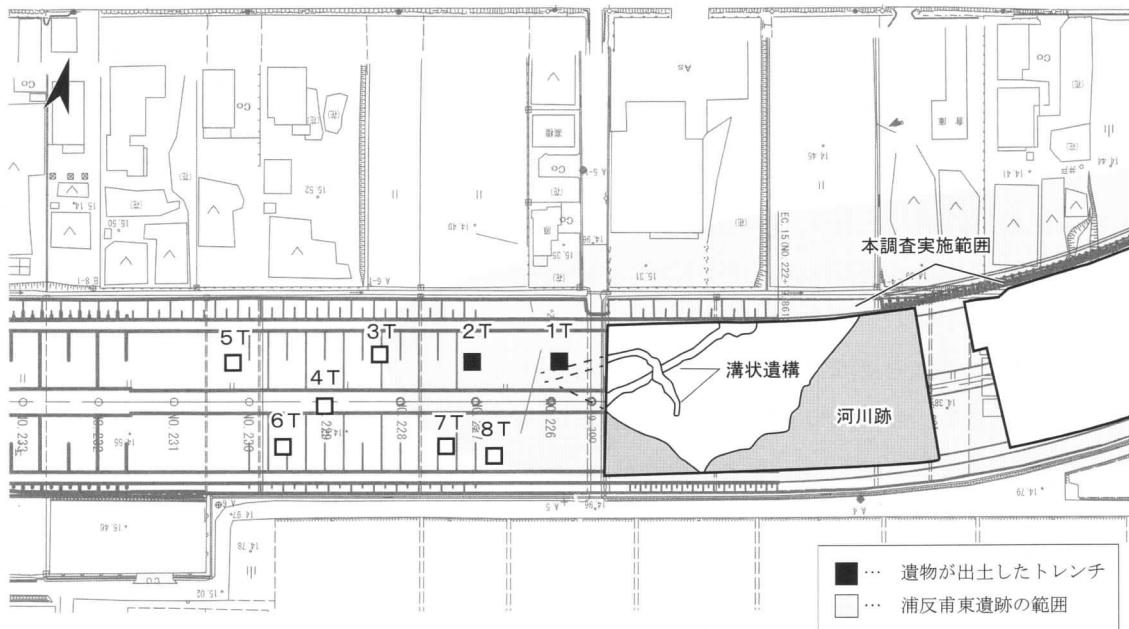


写真3 調査地近景 (東から)



写真4 1T遺物出土状況 (北から)

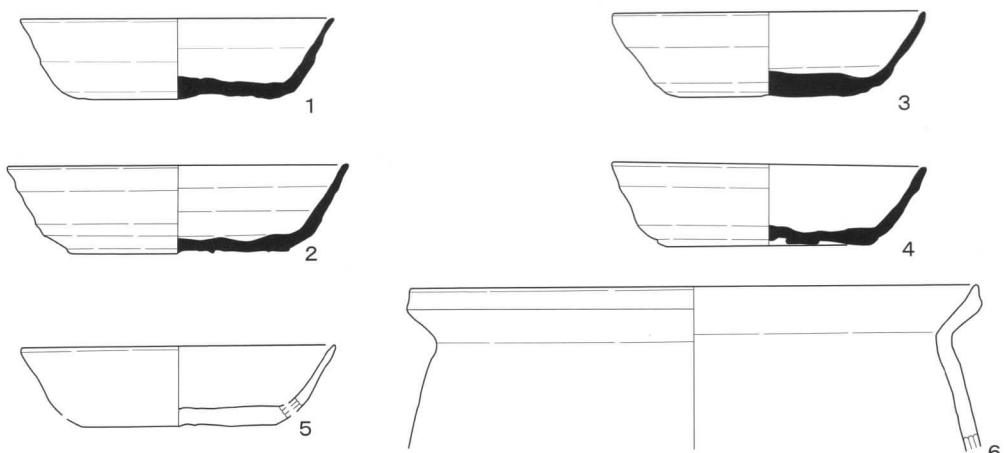
まとめ 試掘調査の結果、遺跡の範囲が西へ広がることが判明したため、周知の遺跡範囲を拡大することとした。遺跡の取扱いについては事業者である新潟県と協議し、記録保存を前提とした本発掘調査を実施する予定である。



第6図 トレンチ配置図 (1/2,000)



第7図 土層柱状図 (1/40)



第8図 出土土器 (1/3)

4 石ノ下遺跡確認調査

調査地 長岡市浦瀬町字石ノ下666番地ほか 調査面積 74.9m² (対象面積12,884m²)

調査期間 平成24年10月22日～24日 調査担当 新田 康則

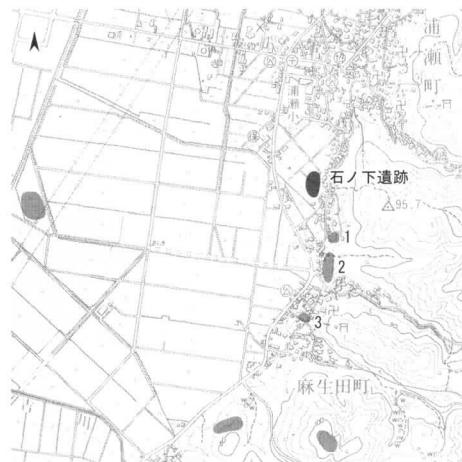
調査に至る経緯 平成23年1月13日宅地造成事業に係る埋蔵文化財の取扱いについての照会があった。照会地の一部が石ノ下遺跡の範囲に及ぶため、事前に確認調査を実施して遺跡の広がりと包蔵状況を確認し、それを事業計画に反映させることとした。

調査地の概要 調査地は信濃川右岸、東山丘陵西麓の沖積地に位置する。周辺では、東山丘陵西麓を開析する小河川・沢が小さな扇状地を作っており、これらに地下城遺跡（1）・北谷遺跡（2）・南谷A遺跡（3）など、古代の小規模遺跡が形成されている。

調査の結果 対象地内において14箇所のトレンチ調査を実施した。その結果、1・3Tで少量の土師器片、5・6Tにおいては土師器・須恵器が比較的まとまって出土した。更に6Tでは柱穴らしき土坑を2基検出した。遺跡の主体部は調査地東の台地にあり、今回5・6Tで確認したのは、台地の落ち際に短期間で形成された廃棄帶と推測される。ただし、6Tの土坑が建物跡を構成するものだとした場合、この推測には再検討の必要が生じるだろう。一方、1・3T出土遺物は出土状況等から2次堆積によるものと判断される。

出土遺物 出土遺物を第13図に示した。1・2は須恵器無台杯。図化資料を含め、出土須恵器はいずれも佐渡小泊窯産とみられる。2は内面に墨痕があり、転用硯としての使用が推測される。3～8はロクロ成形の土師器無台碗。底部は糸切りによって切り離されている。このうち3・4は底面が調整されている。さらに3の内面はヘラミガキが施されている。9～14はロクロ成形の土師器長甕。口縁部の形態にバリエーションがあり、9ではヘラ調整で内面に段をつけ、10は口唇部を工具で圧痕している。対して11はすっきりとした仕上げである。15はロクロ成形の土師器鍋。これら出土土器の帰属時期は9世紀末～10世紀初頭、すなわち下ノ西編年9期（和島村教委 2003）に位置づけられるだろう。

まとめ 調査結果に拠って事業者及び関係機関と協議した結果、事業計画が変更され、都市計画法の規定による公園をここに設置することで、5・6Tを含む範囲は現状保存されることとなった。



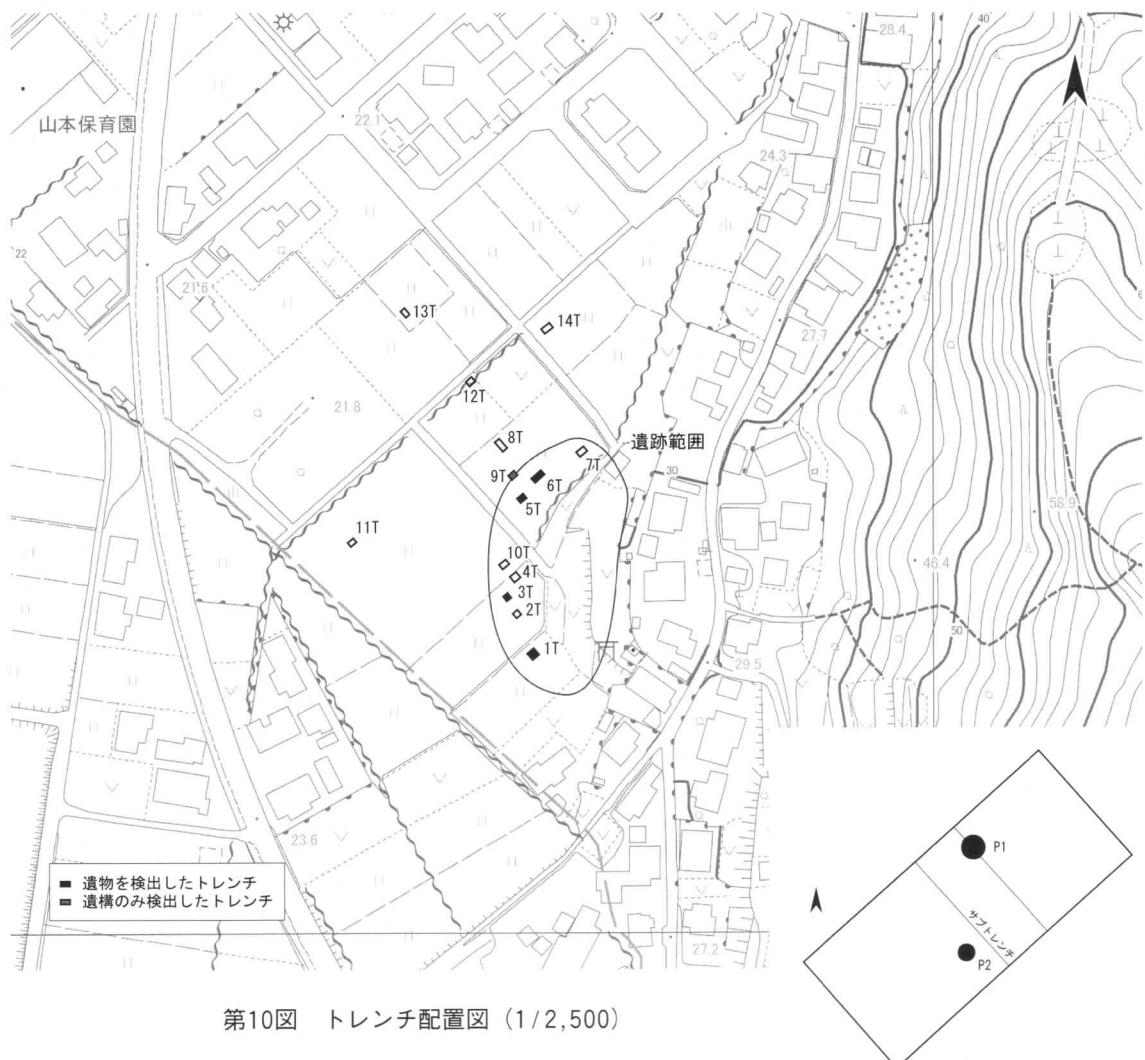
第9図 調査地位置図 (1/25,000)



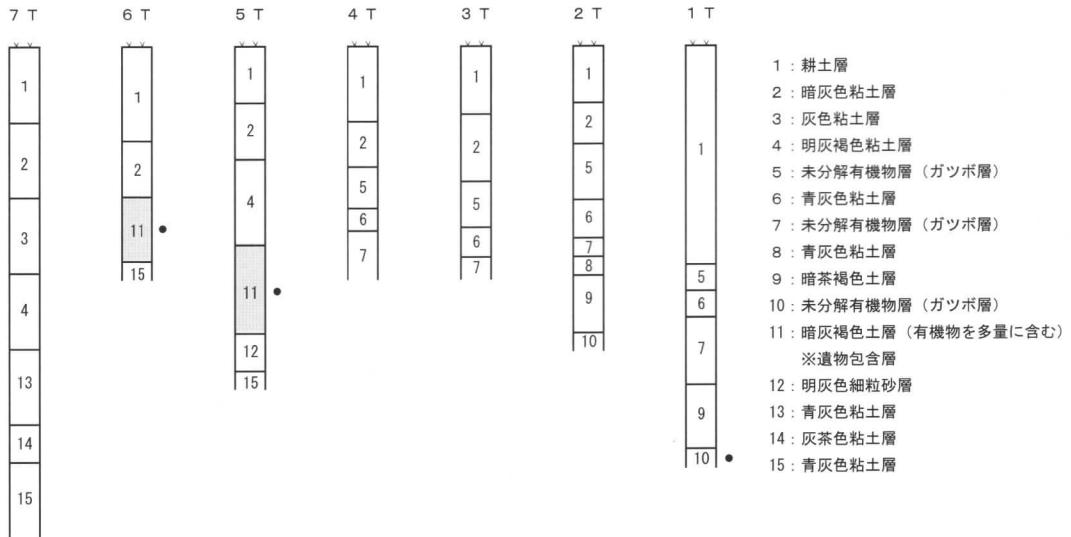
写真5 調査地近景（東から）

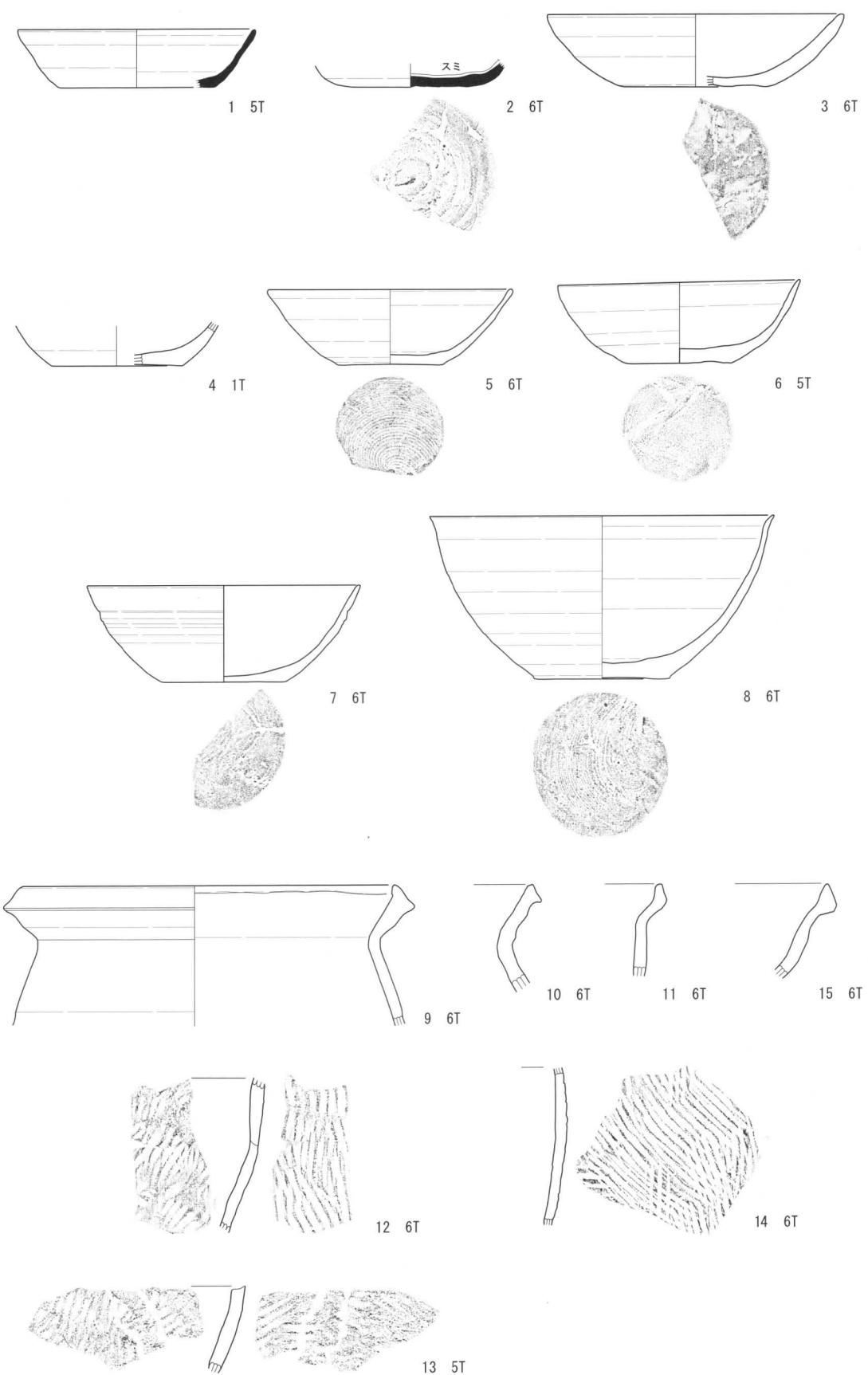


写真6 5T遺物出土状況（南西から）



第11図 6T遺構平面図 (1/100)





第13図 出土遺物 (1/3)

5 乙吉地区試掘調査

調査地 長岡市乙吉町ほか

調査面積 57.3m² (対象面積8,430m²)

調査期間 平成24年4月18日

調査担当 鳥居 美栄

調査に至る経緯 一般県道西片貝浦瀬線の拡幅及び一部路線の変更が計画され、平成20年11月28日、新潟県長岡地域振興局地域整備部道路課と埋蔵文化財の取扱いについての協議を開始した。事業計画地は中野内遺跡に隣接しており、計画法線内での遺跡の広がりの有無や、未周知の遺跡の所在を確認する必要があることから、用地の公有化後に試掘調査を実施することになった。

調査地の概要 信濃川右岸に広がる沖積地と東山丘陵との境界部にあたり、現道の標高は約25~31m、現道と沖積地との比高は2~5mである。丘陵には、岩村遺跡（弥生時代）や七ツ塚古墳群（古墳時代）、奈良時代の間野窯跡、岩村窯跡などが所在している。中野内遺跡は丘陵裾から西側の傾斜地にあり、平成13年度の確認調査において8世紀後半~9世紀初めの須恵器窯跡1基が確認されている（長岡市教委 2002）。

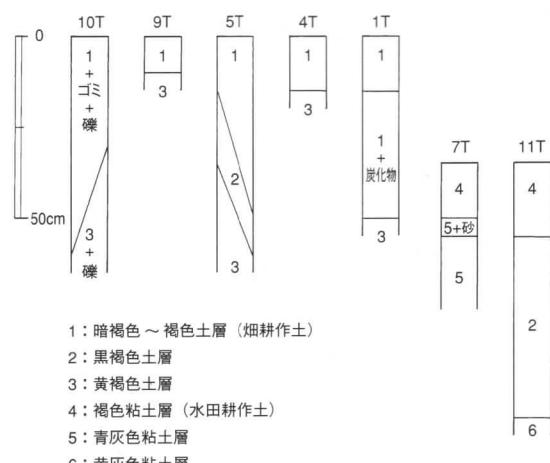
調査の結果 2×2.5mの調査トレンチを沖積地に2箇所（7T、11T）、丘陵裾に9箇所設定し、バックホウで掘削を行った。中野内遺跡周辺のものを含むいずれのトレンチにおいても遺構・遺物は確認されなかつた。事業計画地に遺跡は所在しないと判断し、工事実施は支障ないと事業者に伝えた。



第14図 トレンチ配置図 (1/10,000)



写真7 調査地近景 (7T付近)



第15図 土層柱状図 (1/20)

6 山下C遺跡確認調査

調査地 長岡市柿町4617番地

調査面積 135.7m² (対象面積600m²)

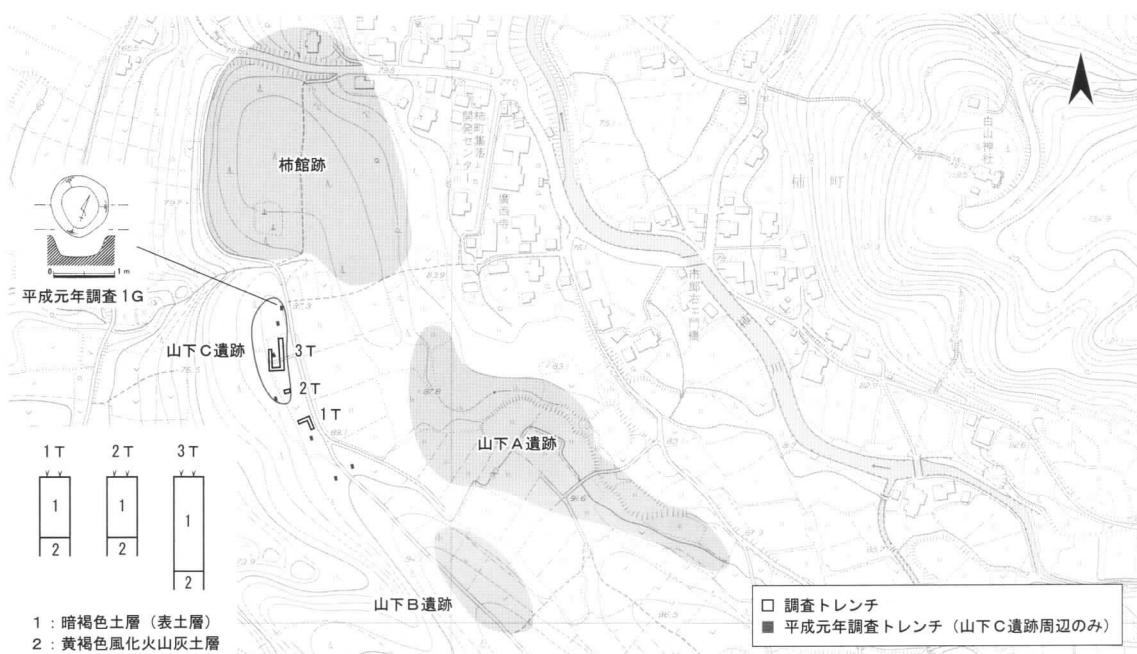
調査期間 平成24年10月12日・18日

調査担当 新田 康則

調査に至る経緯 平成24年7月10日、柿館跡及び山下C遺跡周辺における埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。これは地域住民による環境整備事業に係るものであり、山下C遺跡においては碎石敷設による既存道路の拡幅工事であった。工事には掘削が伴わないが、遺跡の内容が不明確であるため、確認調査を実施することとした。土地所有者の理解を得て、工事範囲外の隣接荒蕪地も調査対象に含めた。

調査地の概要 東山丘陵西麓の丘陵上に位置する。周辺は小さな舌状台地の形成が顕著であり、これら舌状台地上に山下A遺跡・山下B遺跡など、縄文時代中期を主体とする遺跡が確認されている。

調査の結果 調査トレンチ3箇所における調査の結果、近年までの耕作により地山層（黄褐色風化火山灰土層）上部まで搅乱を受けていることが明らかとなった。遺構・遺物は検出されず、平成元年調査（長岡市教委 1990）で検出された1Gの縄文時代晚期後葉の土器を伴う土坑は、集落外に構築されたものと判断される。以上から、埋蔵文化財保護行政上の更なる措置は必要ないと判断し、事業者にその旨を伝えた。



第16図 トレンチ配置図 (1/5,000) 及び土層柱状図 (1/20)



写真8 1T完堀状況（北から）

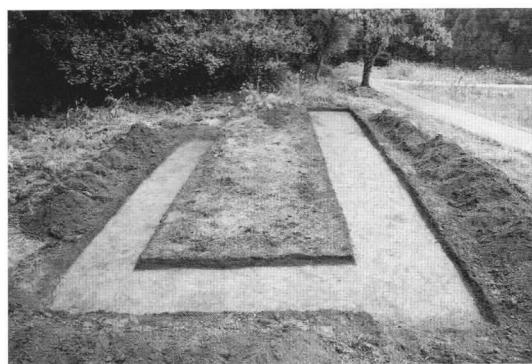


写真9 3T完堀状況（南から）

7 柿館跡確認調査

調査地 長岡市柿町4607番地ほか

調査面積 3.5m^2 (対象面積 900m^2)

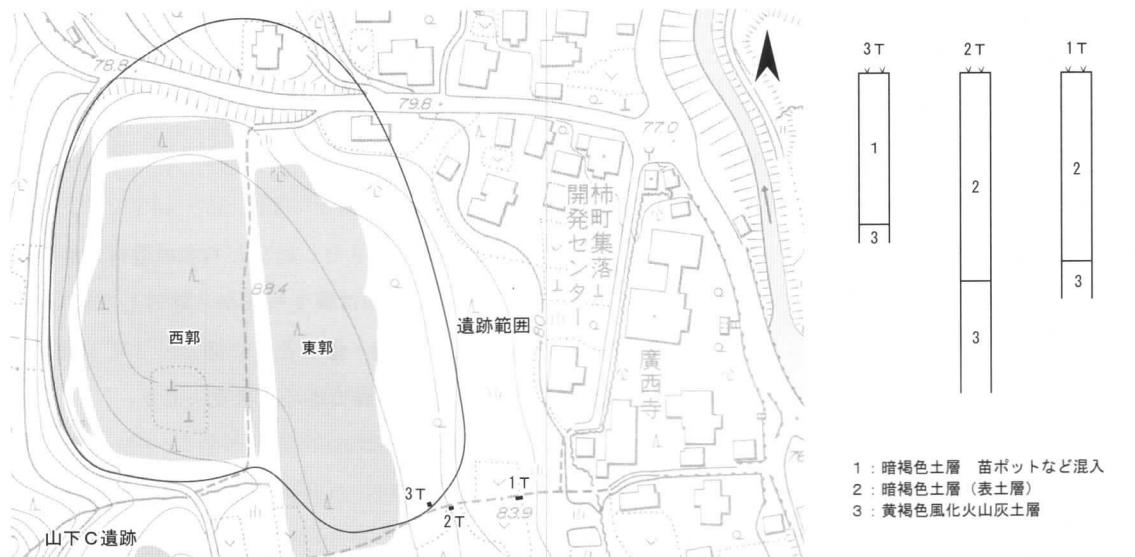
調査期間 平成24年8月23日～9月12日

調査担当 新田 康則

調査に至る経緯 平成24年7月10日、柿館跡及び山下C遺跡周辺における埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。これは地域住民による環境整備事業に係るものであり、柿館跡においては砂利敷きによる農道拡幅、平坦面の伐根・整地と、工事内容は軽微であったが、事前に調査を実施して柿館跡の範囲と遺存状況を確認することとした。

調査地の概要 柿館跡は東山丘陵西麓の台地上に位置する。『長岡市史』資料編では1辺約100mの略方形を呈し、中央を走る切通によって郭が東西に区画するものと推測されている(長岡市 1992)。郭の全体形状は大きな改変を受けていないと思われるが、現在は杉・竹・ミョウガが繁茂する土地となっている。

調査の結果 農道拡幅部分については、地形の肩部に1・2Tを設けて館遺構の存否を確認した。土壘や濠などの遺構、そして遺物は検出されず、『長岡市史』での推測とおり館の範囲はここまで及んでいないと言える。さらに、東郭の縁辺部における公園造成部分において3Tを設定したが、遺構・遺物の検出はなかった。近年までの畑作とその後の植生で地山層上面まで大きく搅乱されていることが判明した。以上の結果から、埋蔵文化財保護行政上の更なる措置は必要ないものと判断し、事業者にその旨を伝えた。



第17図 トレンチ配置図(1/2,500) 及び土層柱状図



写真10 柿館跡遠景(南西から)

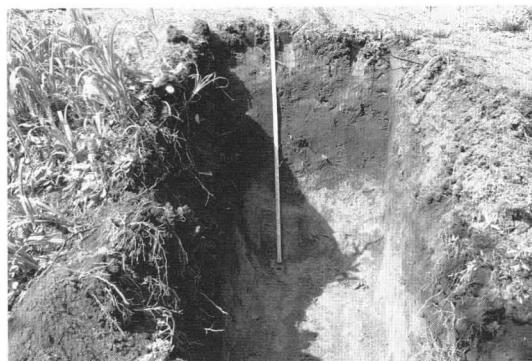


写真11 2T堆積状況(東から)

8 柿地区試掘調査

調査地 長岡市柿町3900番地2ほか 調査面積 124.6m² (対象面積8,250m²)
調査期間 平成24年10月10日～12日 調査担当 鳥居 美栄

調査に至る経緯 柿町地内には、縄文時代中期の集落跡として著名な山下A遺跡を始め、多くの遺跡の所在が知られている。平成元年度にはスキー場などの開発計画に伴う確認調査が行われ、その結果を基に周辺の市道整備計画などと調整を図ってきた。市道山通96・161号線の道路改良法線が決定したことから、平成23年4月27日、長岡市土木部道路整備課と埋蔵文化財の取扱いについて具体的な協議を開始した。事業地の一部が山下A遺跡に近接しており、遺跡の広がりを確認する必要があること、また、未周知の遺跡が所在する可能性があることなどから、計画法線内において試掘調査を行うこととなった。

調査地の概要 山下A遺跡は、柿川左岸の標高85～95mの丘陵の尾根上に立地する縄文時代中期から後期の集落跡である。平成元年度の調査などから、丘陵の北東側の崖に土器捨て場の存在が推定されており（長岡市教委 1990）、道路法線はその崖下の北側を通る。また、山下A遺跡の南東、標高約105mの丘陵上に縄文時代前期及び中期とみられる小毬山遺跡があり、道路法線はその丘陵裾を通ってさらに丘陵の奥へと入る形で計画されている。



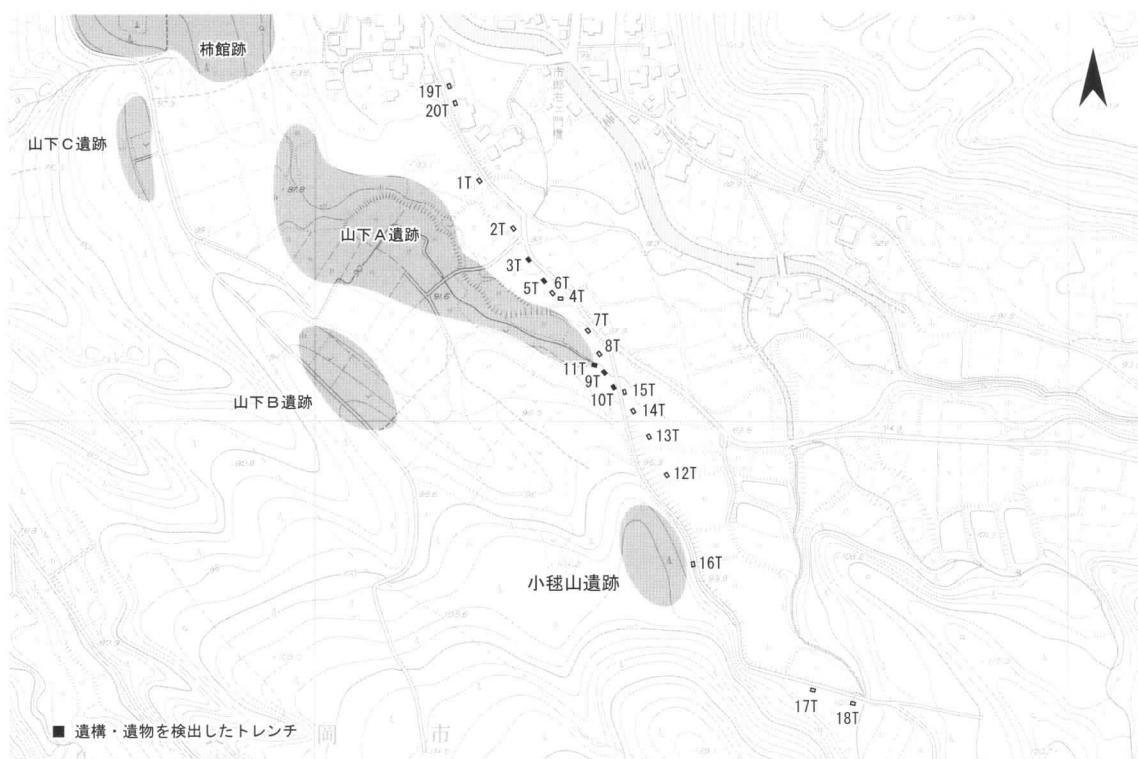
写真12 調査地近景（3T付近）

調査結果 山下A遺跡の周辺を中心に20箇所の調査トレンチを設定し、バックホウ及び人力で掘削を行った。山下A遺跡周辺の3T・5T・9～11Tでは、縄文土器や磨石を包含する黒色土層を確認した。小毬山遺跡がある丘陵の裾に設けた12～15T、17・18Tでは、柿川に流れ込む沢によって運ばれたと見られる土砂や礫が堆積しており、水さらし場などの水場遺構が存在する可能性は低い。19・20T付近は個人住宅を除却した箇所であり、当初は調査対象から除外していたが、珠洲焼の甕胴部破片1点を表採したことから、試掘調査を行った。遺構・遺物ともに確認できず、除却の搅乱土の下に黒灰～黒褐色粘土と青灰色粘土が堆積しており、柿川の水際であったと見られる。

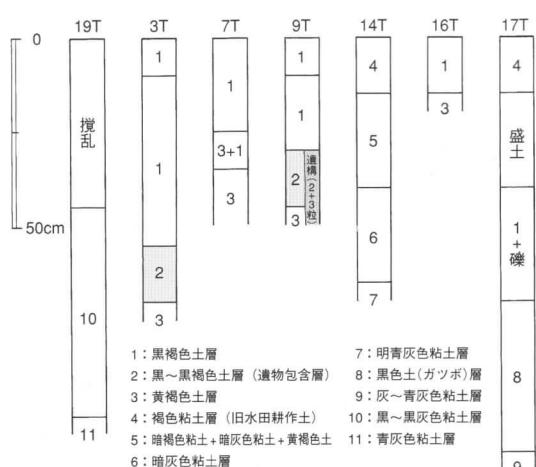
遺構 3T・5T・9～11Tにおいて土坑を検出した。土坑の直径は20～50cmのものが多く、60cm以上あるものも確認されている。3Tの土坑のうち1基を発掘したところ、磨石の可能性がある礫が入っていたが土器片は含まれず、時期は不明である。覆土は地山の黄褐色土粒を少量含む黒色土であり、そのほかの土坑の覆土もおおむね同様である。

遺物 3Tから縄文土器破片11点、磨石1点、被熱した礫1点、5Tから磨石3点、台石1点が出土した。いずれも包含層からの出土である。また、前述のとおり、19T付近で珠洲焼1点が表採されている。縄文土器は、縄文施文のものが多く、条線文のものも1点あり、中期中葉から後期前葉と見られる。今回の調査では中期前葉以前に位置づけられる土器は出土していない。磨石はいずれも安山岩製で、直径8～12cm、厚さ4～6cm。台石は、一部が欠損しているが、台形に近い五角形の平面形で、長さ20cm、幅26cm、厚さ5cm、扁平な安山岩の上面を平面に仕上げている。被熱した礫は長さ14cm、幅24cm、高さ10cmの長円形の安山岩で、両短辺と片側の長辺が強く被熱しており、炉石として用いられたものと見られる。

検出した遺構の時期は不明であるが、事業計画地の一部まで山下A遺跡の範囲が広がると判断した。そのため、事業地の一部において工事前の発掘調査が必要であることを事業者に伝えた。



第18図 トレンチ配置図 (1/5,000)



第19図 土層柱状図 (1/20)



写真13 3T遺構検出状況(南東から)

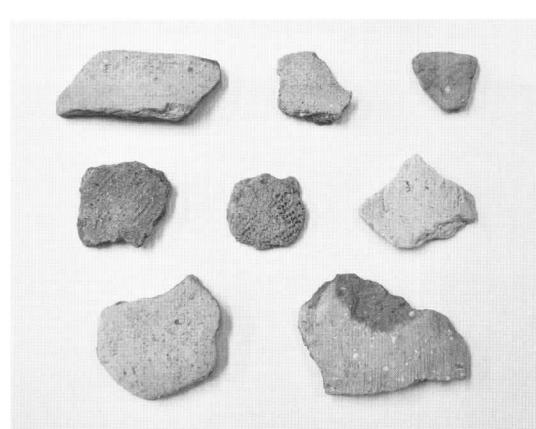


写真14 出土土器

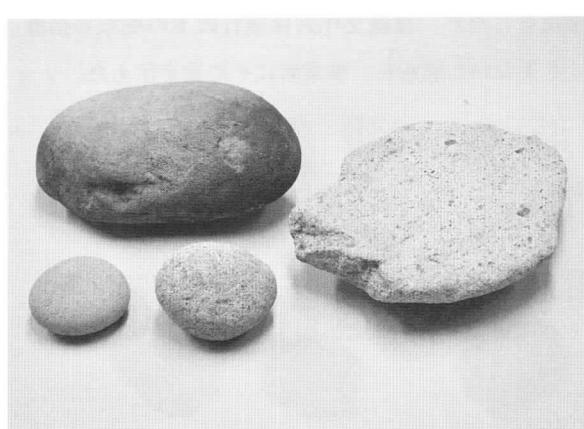


写真15 磨石・台石・被熱した礫

9 千谷沢地区試掘調査

調査地 長岡市千谷沢3997番地1ほか

調査面積 67.9m² (対象面積1,000m²)

調査期間 平成24年5月18日～22日

調査担当 新田 康則

調査に至る経緯 平成23年2月28日、一般国道404号線改築工事に係る埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。照会地には周知の遺跡はないが、周辺に遺跡がやや偏在すること、渋海川を臨む舌状台地には遺跡が形成される事例が多いことから、試掘調査を実施して、事後の協議に資することとした。

調査地の概要 調査地は信濃川支流渋海川の左岸に形成された舌状台地東端部に位置する。同じ台地上には縄文時代後期前葉を主体とする小坂遺跡（1）が知られる。また、中世の御館跡（2）・小坂城跡（3）・中山城跡（4）、右岸の沖積地には古代の上屋敷遺跡（5）などが点在する。

調査の結果 台地頂部に1T、その南側下段に2Tを設定した。1Tでは縄文土器・土師器・須恵器が出土した。しかし、長年にわたる畑作の影響で、遺物包含層が原状を保っておらず、土器も細片が多い。縄文土器は後期後半～晚期、土師器・須恵器は9世紀後半と、おおまかに位置づけておく。遺跡はそれぞれの時期における小規模な活動痕跡と解釈したい。また、ここでは3本の溝を検出したが、遺物の帰属時期よりも新しいと推測される。2Tでは遺構・遺物は検出できなかった。2Tの状況から、渋海川対岸部分（旧小国町域）での調査は不要とした。

調査後、1Tを含む範囲を「小坂東遺跡」として周知化をしたが、埋蔵文化財保護行政上の更なる措置は必要ないと判断し、事業者にその旨を伝えた。

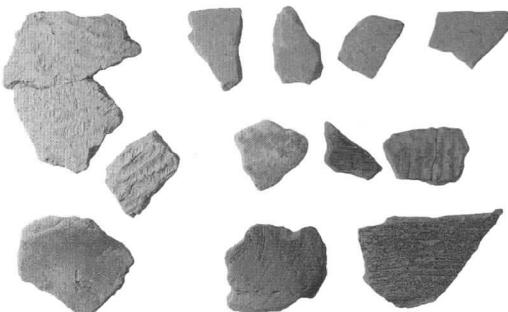


写真17 出土遺物



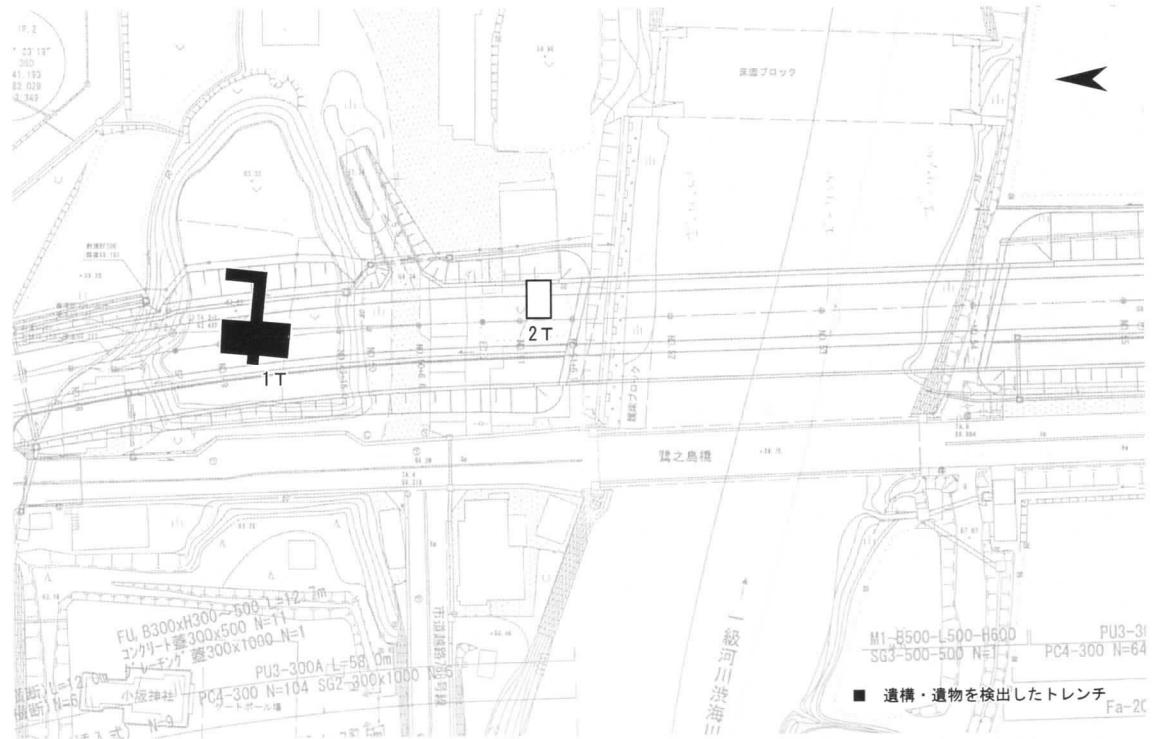
第20図 調査地位置図 (1/20,000)



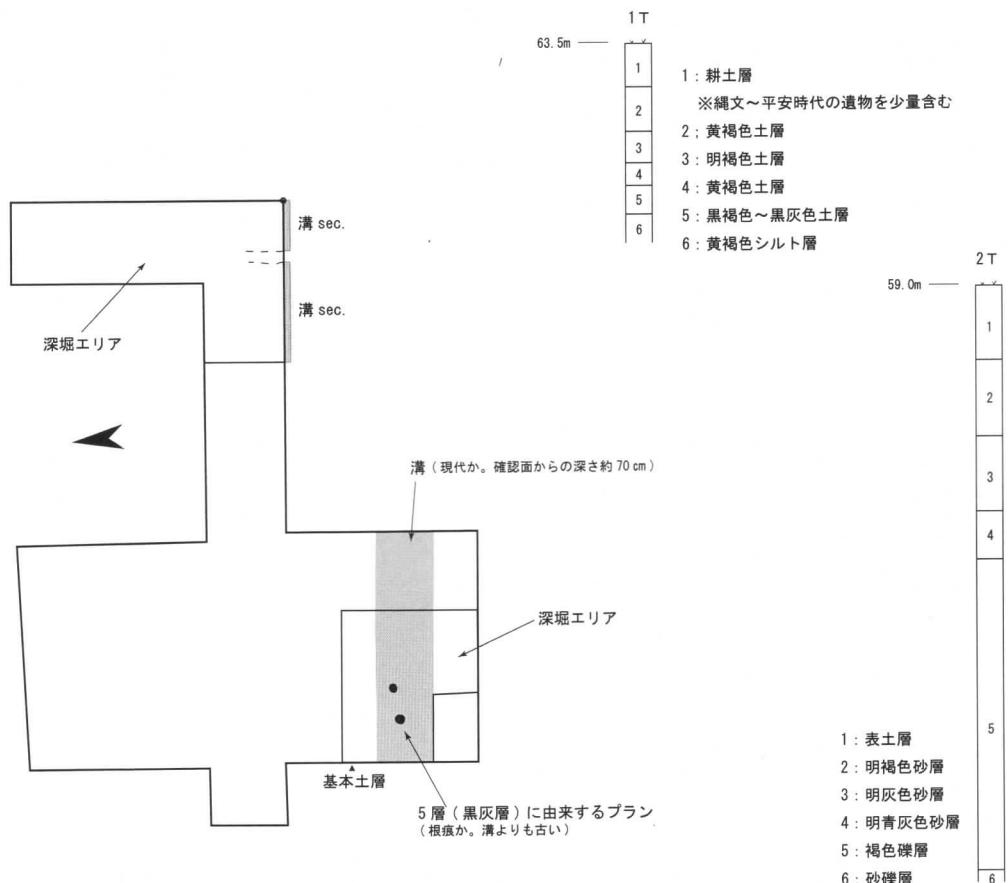
写真16 調査地近景 (北から)



写真18 1T 完堀状況 (北から)



第21図 トレチ配置図 (1/1,000)



第22図 1T平面図 (1/150)

第23図 土層柱状図 (1/40)

10 栃倉遺跡立会調査

調査地 長岡市金沢字大倉 地内

調査面積 160.0m² (対象面積160m²)

調査期間 平成24年9月18日～20日

調査担当 小林 徳

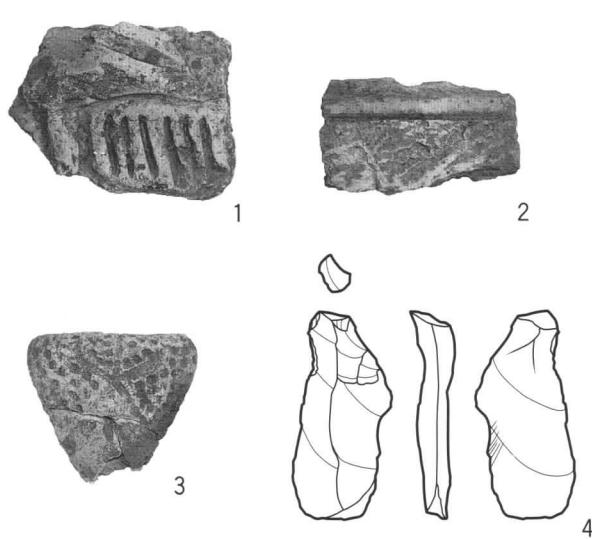
調査に至る経緯 平成20年に長岡市水道局にて栃尾町大倉地区における給水施設設置計画が起こり、それに伴う埋蔵文化財の取扱いについて長岡市教育委員会と水道局は協議を行った。協議の結果、予定地内には周知の埋蔵文化財である栃倉遺跡が存在しているため、現在の舗装道路中央に水道管を敷設するため試掘調査が必要である旨を伝えたが、後に水道局から平成8年に道路拡張工事に伴いすでに試掘調査をしている道路脇部分に水道管を敷設する計画に変更になったため、立会調査により対応することになった。

調査地の概要 栃倉遺跡は刈谷田川右岸に立地する栃倉段丘と呼ばれる河岸段丘上で、栗林や荒地となっている。栃倉遺跡は縄文時代中期の石圓炉を持つ住居跡が多数検出された遺跡で、火炎土器や栃倉式土器を中心とした土器群のほか、土偶など多くの遺物が発掘されている。

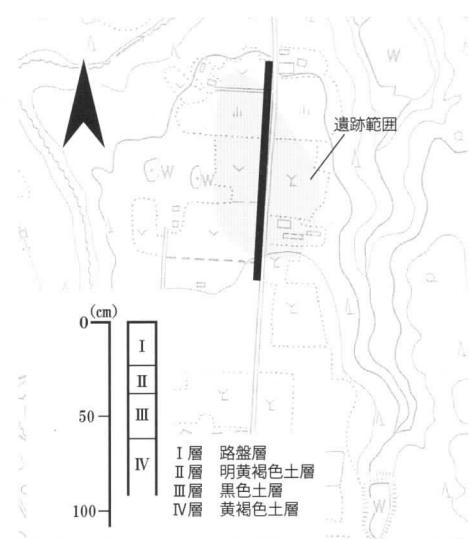
調査の結果 調査地点は、平成8年度に道路拡張工事のため試掘調査がなされており、今回の調査区内はすでに調査が終了している。結果、数軒の住居跡などとともに多数の土器が出土している。今回の立会調査においては、事業者の重機にて慎重に掘削していったが、一度掘削された跡の層位であった。しかし、舗装道路下の部分は未掘削であったため、重機掘削後の人による整形のための削りだし時に土器片23点、石器1点、三角形土版1点が、地層にへばりつくようにして検出された。

舗装道路下の地層は、厚い路盤層と改良土とみられる明黄褐色土の下に、20から25 cmの黒色土が続き、その下に地盤層である黄褐色土層が形成される。遺物はいずれも黒色土層でみられた。

1は土器片。キャリパー状に開いている頸部の破片で、厚い貼り付けによる区画内には縦方向に棒状工具によって沈線が刻まれている。大木8a式の土器とみられる。2は土器口縁部片。半截竹管文の下にLRの縄文が施されている。3は三角形土版。幅4.5 cm、高さ3.85 cm、厚さ1.35 cm。下部の一部が欠損している。「大」の字状に浅い沈線で区画され、下の区画には下方向から深い刺突がなされている。他の区画には全体に浅い刺突が施される。4は流紋岩製の縦長剥片。幅2.6 cm、長さ5.5 cm、厚さ1.2 cm。一部が重機により欠損している。



第24図 出土遺物 (1/2)



第25図 調査地 (1/10,000)、層序 (1/40)

参考文献

柄尾市教育委員会

1961 『柄倉』 吉川弘文館

中村孝三郎

1966 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館

長岡市

1992 『長岡市史』資料編1 考古 長岡市

長岡市教育委員会

1990 『長岡市内遺跡群発掘調査報告書 山下遺跡 青木遺跡 小毬山遺跡』 長岡市教育委員会

2002 『長岡市内遺跡発掘調査報告書 千代栄町地区』 長岡市教育委員会

2006 『平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『平成19年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2009 『平成20年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2010 『平成21年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2011 『平成22年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2012 『平成23年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2012 『川東遺跡 一二級河川郷本川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財調査報告書一』 長岡市教育委員会

和島村

1996 『和島村史』資料編 I 自然・原始古代・中世・文化財 和島村

和島村教育委員会

2003 『下ノ西遺跡IV 一県営圃場整備事業(桐島桐原地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』 和島村教育委員会

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうよねんどながおかしないいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成24年度長岡市内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	新田康則・鳥居美栄・小林徳・丸山一昭						
編集機関	長岡市教育委員会						
所在地	〒940-0072 新潟県長岡市柳原町2番地1						
発行年月日	2013年3月15日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
うらたんぽひがしいせき 浦反甫東遺跡	ながおかしまざき403ばんち2ほか 長岡市島崎403番地2ほか	152021	1308	373443 1384629	20121012 / 20121015	101.6m ²	試掘・確認調査
いしのしたいせき 石ノ下遺跡	ながおかしうらせまちあざいしのした666ばんちほか 長岡市浦瀬町字石ノ下666番地ほか	152021	328	373754 1385420	20121022 - 20121024	74.9m ²	試掘・確認調査
さんかしいせき 山下C遺跡	ながおかしかまち4617ばんち 長岡市柿町4617番地	152021	361	372419 1385205	20121012 / 20121018	135.7m ²	試掘・確認調査
かきやかたあと 柿館跡	ながおかしかまち4607ばんちほか 長岡市柿町4607番地ほか	152021	214	372422 1385208	20120823 - 20120912	3.5m ²	試掘・確認調査
さんかえーいせき 山下A遺跡	ながおかしかまち3900ばんち2ほか 長岡市柿町3900番地2ほか	152021	9	372418 1385216	20121010 - 20121012	124.6m ²	試掘・確認調査
こさかひがしいせき 小坂東遺跡	ながおかしちやざわ3997ばんち1ほか 長岡市千谷沢3997番地1ほか	152021	1417	372024 1384331	20120518 - 20120522	67.9m ²	試掘・確認調査
とちくらいせき 柄倉遺跡	ながおかしなさわあざだいら 長岡市金沢字大倉1213-2	152021	630	372854 1390053	20120918 - 20120920	160.0m ²	工事立会
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
うらたんぽひがしいせき 浦反甫東遺跡	遺物包含地	平安	溝	須恵器・土師器			なし
いしのしたいせき 石ノ下遺跡	遺物包含地	平安	土坑	須恵器・土師器			なし
さんかしいせき 山下C遺跡	遺物包含地	縄文	なし	なし			なし
かきやかたあと 柿館跡	城館跡	中世	なし	なし			なし
さんかえーいせき 山下A遺跡	遺物包含地	縄文	土坑	縄文土器・磨石			なし
こさかひがしいせき 小坂東遺跡	遺物包含地	縄文・平安	溝	縄文土器・須恵器・土師器			なし
とちくらいせき 柄倉遺跡	遺物包含地	縄文	なし	縄文土器・三角形土版・石器			なし

平成24年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成25(2013)年3月15日 印刷

平成25(2013)年3月15日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 株式会社サンワプロセス